

医療法人社団ゆずりは 永田外科胃腸内科
永田靖彦

「西東京市における胃がんリスク検診」 -導入5年間における成績と諸課題-

西東京市では、平成23年度より胃がんリスク検診を医師会独自の公益事業として導入し、導入5年目を経過した。現在は、市の事業として移行し運用継続をしている。結果、多くの胃がん症例を発見し、市内での胃がん検診の状況は劇的に好転した。

初回導入では、約2万人の市民を対象として実施し、約60例と極めて多くの胃がん症例を発見した。その発見数は、従来の胃がんバリウム検診のおよそ10倍である。発見率は、導入後5年目の現在も高値を維持しており、当検診の高いポテンシャルが推察される。

発見された症例の詳細を見ると、早期胃がんの占める割合が高く、早期発見および早期治療に寄与する事が明らかになった。つまり、受診者の救命、費用対効果の上で大きな効果が期待される。

我が国では、今年度から対策型胃内視鏡検診が導入された。しかし、マンパワーの問題、対象者が原則国民全員である、マニュアルの問題など、運用には極めて高いハードルが見受けられ、早くも課題となりつつある。そこで、対象者を層別化する、臨床に則した当ABC検診の位置づけが今後ますます重要となることが想定され、適切な運用とさらなる普及が強く望まれる。一方、新規検診ゆえ導入から運用までの行程では種々の課題も見受けられ、対応には工夫を要した。

本日は、当市での検診導入の背景、検診の概略、課題などを若干の成績を加えて述べる。導入を検討する市区町村、企業の皆様の一助になれば幸いである。